

令和3年度 中学校理科 教科書「新しい科学」 旧課程教科書からの用語に関する内容の変更箇所一覧

学年	頁数	変更内容	変更の主な理由
1～2	1年第2章 2年p.127など	維管束の観察（植物の内部の観察）について、1年では分類の観点としては用いず、2年で植物の根・茎・葉の内部の観察を行った後に維管束の並び方が単子葉類と双子葉類で異なっていることを示す構成とした。	学習指導要領に「身近な観察を扱うが、ルーペや双眼実体顕微鏡などを用いて、外見から観察できる体のつくりを中心に扱うこと」と明記されたことにより、維管束の観察（植物の内部の観察）は1年では学習の範囲外にあたるため。
1	52	「恒温動物」と「変温動物」は発展的な内容（学習指導要領に示されていない内容）に変更。	学習指導要領に「身近な観察を扱うが、ルーペや双眼実体顕微鏡などを用いて、外見から観察できる体のつくりを中心に扱うこと」と明記されたことにより、「体温の変化（恒温動物か変温動物かどうか）」についてはルーペなどを用いた外見から観察できるものにあたらなため。
1	147	プリズムによって光の色が分かれる内容を新規に追加。	学習指導要領に「白色光はプリズムなどによっていろいろな色の光に分かれることにも触れること。」と明記されたため。
1	156	「凸レンズの軸」から「光軸」に変更。	これまで「光軸」を「凸レンズの軸」と表現してきたが、レンズの中心を通り光軸に垂直な軸が「凸レンズの軸」という誤解が生じないようにするため。
1	164	「音源または発音体」から「音源」に変更。	必要以上に用語を増やすことを避けるため。
1	218	日本付近だけでなく地球規模のプレートの動きと地震の分布にも触れるよう図を追加。	旧学習指導要領では3年(7) 自然と人間（イ 自然の恵みと災害）のなかで、地球規模でのプレートの動きも扱うことになっていたが、新学習指導要領では、1年で日本列島付近の震源の分布を学習する際に、地球規模のプレートの動きと地震の分布に触れることになったため。
2	10-11	周期表に新たに113, 115, 117, 118番元素が追加され、元素の性質がわからないところはその旨を明記するように変更。	2016年に113, 115, 117, 118番元素の名称が正式に決定したことを受け、周期表を更新した。従来の周期表では、単体としての性質や常温での状態を明記していたが、新元素の追加に伴い、単体の性質が確認できないもの（原子番号100番以降の元素）については、その性質が不明であることを示すことにした。
2	28	「元素」、 「元素記号」という用語を新規に追加。	学習指導要領に「『物質を構成する原子の種類』を元素ということにも触れること。また、『記号』については、元素記号で表されることにも触れ、」と明記されたため。
2	28	上記に付随して、「周期表」から「元素の周期表」に変更。	同上
2	41	「化合」を重要用語として扱わず、注釈で「単体どうしが反応して化合物を生じる反応を化合とよぶこともある。」と変更。	平成28年度以前の中学校教科書では、化学変化をすべて「分解」か「化合」の2種類に分類して表現しており、化学変化の表現の正確性に欠けるとして、2016年に日本化学会から「化合」の用法を「単体同士の反応に限って」使用するよう提案がなされた。これを踏まえ、新学習指導要領では「化合」という用語が削除されたため、本教科書でも扱いを変更した。
3	22	中性子の数が異なる原子（同位体）を新規に追加。	学習指導要領に「同じ元素でも中性子の数が異なる原子があることにも触れること」と明記されたため。
3	23	「イオン式」から「イオンを表す化学式」に変更し、重要用語（太字）ではなくした。	平成28年度以前の中学校・高校の教科書では、イオンを表す化学式を特別に「イオン式」と呼んでいたが、特別に用語として暗記させる必要がなく、生徒の負担を増やすという懸念から、2015年に日本化学会から「化学式」と呼ぶように提案された。これを踏まえ、新学習指導要領では「イオン式」という用語が削除されたため、本教科書でも扱いを変更した。
3	58	「ダニエル電池」という用語を新規に追加。	学習指導要領に「『電池の基本的な仕組み』については、ダニエル電池を取り上げること。」と明記されたため。
3	99	「優性形質」、 「劣性形質」から「顕性形質（優性形質）」、 「潜性形質（劣性形質）」に変更。	「劣性」＝「劣っている」という誤解が生じる懸念が長年あり、2017年に日本遺伝学会から「優性」、「劣性」を「顕性」、「潜性」に変更するように提言がなされ、従来使用していた用語と併記することが望ましいと判断したため。